

相互支援による地域共生社会の成熟・深化に向けたケアサイエンス研究ネットワーク拠点

① ビジョンの概要

「ケアサイエンス」は Society 5.0 のもとケア技術と理念、概念の改革を進め、ケアに関わる重層的課題を解明し、エビデンスに基づき政策提言や保健・医療・福祉システムの改革に寄与する。それにより、全ての人が「自分ごと」として自らケアの探求と実践を行う人となるソーシャルエンゲージメントの基盤を作る。そして、全ての人がケアを受け、共に創ることで安心して暮らし続けることができる未来の多文化・多世代・地域共生社会を成熟、深化させる。

② ビジョンの内容

ケアとは、他者及び自身への関心と相互作用を基盤とした気遣いや配慮、世話等の態度や行為を意味し、それを実践するための技術を含めて、解決すべき課題や解決法、適切なあり方がこれまで多学問分野それぞれで議論されてきた。「ケアサイエンス」は分野横断によってこの議論に横串を通し、市民、行政、企業等と共に技術研究やケアの理念、それらを含むケアの概念そのもののアップデート、また実践活動を推進し、未来社会の構築をめざす新たな学術領域である。

本ビジョンでは、この「ケアサイエンス」を基盤として、ケアに関わる重層的な課題を解明し、エビデンスに基づく政策提言や保健・医療・福祉システムの改革に結びつける。そして、多分野の連携と統合によるケアサイエンスの理論とケア研究のプラットフォームを構築し、研究の持続的発展と国際交流に向けて、ケア研究基盤ネットワーク拠点を構築する。

この取り組みによって、[1]全ての人がケアを「自分ごと」として自らケアの探求と実践を行い、相互支援につなげるソーシャルエンゲージメントの基盤を作り、[2]全ての人がケアを受け、共に創ることによって安心して暮らし続けることのできる未来の多文化・多世代・地域共生社会を成熟、深化させる。

超少子・高齢社会先進国である日本によるケア研究推進と未来社会の実現は、世界の多くの国々のモデルともなるケア研究とその拠点形成を推進し、国際的ケア研究ネットワークを牽引する。

このビジョンは、持続可能な開発目標における「3. すべての人に健康と福祉を／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを」に関わるケア研究であり、取組み課程においてこの目標を達成し、ケアによる社会変革を起こすことを目論む。

③ 学術研究構想の名称

相互支援による地域共生社会の成熟・深化に向けたケアサイエンス研究ネットワーク拠点

④ 学術研究構想の概要

4 側面での研究である、(1) 未来のケア技術の開発とケアイノベーションの社会展開、(2) ケアのジェンダーギャップに関する研究の国際化推進、(3) 外国人を含む多様な人々がケアしあう多文化・地域共生社会の構築、(4) 「ケアする共生の場所」のデザインと持続可能な共生社会の実現、を相互に関連付けながら進め、全ての市民がケアを共創する統合的ケアサイエンスの理論とネットワークを構築する。また、研究の持続的発展と国際交流に向けて、ケア研究基盤ネットワーク拠点を構築する（図1）。

⑤ 学術的な意義

1) 提案の背景

高度経済成長期、人口拡大の時代に構築された日本の現行社会システムは、本来は一体不可分である広義の公共の福祉＝ケアが分断され、社会的再生産と経済的生産の不均衡を招いている。人口減少を伴う超少子・

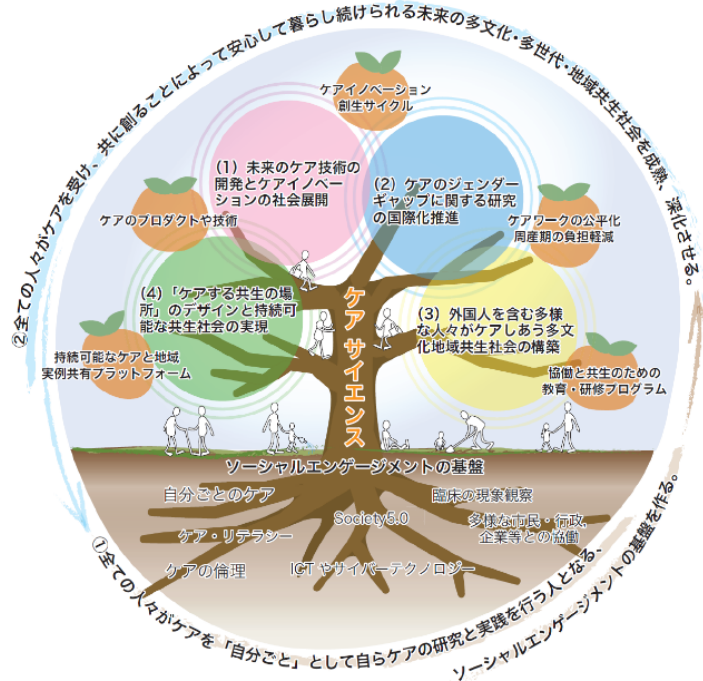


図1 研究全体の説明図

図2 研究のフロー